【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成25年11月28日(2013.11.28)

【公表番号】特表2013-508000(P2013-508000A)
【公表日】平成25年3月7日(2013.3.7)
【年通号数】公開・登録公報2013-012
【出願番号】特願2012-533700(P2012-533700)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｌ　9/14　(2006.01)
Ａ６１Ｌ　9/03　(2006.01)
Ａ０１Ｍ　1/20　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｌ　9/14
Ａ６１Ｌ　9/03
Ａ０１Ｍ　1/20　C
Ａ０１Ｍ　1/20　F

【手続補正書】
【提出日】平成25年10月11日(2013.10.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも１つの空気処理剤の分配装置を動作させる方法であって、前記分配装置は、
空気処理剤の少なくとも１つの取り外し可能容器を少なくとも部分的に内部に受け入れるように適合された内部を定める１つ又はそれ以上の壁を有するハウジングを含み、前記ハウジングにおける前記装置は、
空気中の空中物質を検出するように動作可能な空中物質検出器手段を含み、前記空中物質検出器手段には、使用中、前記装置の外部からの空気が前記空中物質検出器手段に入るのを可能にするための、前記装置の外部へ通じる少なくとも１つのアパーチャが設けられ、
空気処理剤の前記少なくとも１つの容器を受け入れるための受け入れ手段と、
使用中、前記ハウジング内の１つ又はそれ以上の出口オリフィスを通って、前記装置から前記空気処理剤を発散させるように適合された発散手段と、
前記発散手段及び前記空中物質検出器手段と通信状態にある制御手段とをさらに含み、
前記空中物質検出器手段は、１つ以上の金属酸化膜半導体センサ、及び、１つ以上の金属酸化物匂いセンサのうちの少なくとも一方を含んでいて、
ひとたび、前記金属酸化膜半導体センサ、又は、前記金属酸化物匂いセンサが動作温度まで加熱されると、前記センサへの電力の印加は、０．５秒から１０秒までの間続くオフ期間を有した状態で５ｍｓから１０００ｍｓまでの間続くことができる、
ことを特徴とする方法。
【請求項２】
ひとたび、前記金属酸化膜半導体センサ、又は、前記金属酸化物匂いセンサが動作温度まで加熱されると、前記電力パルスは、０．５秒から３．５秒までの間続くオフ期間を有した状態で５ｍｓから６０ｍｓまでの間続くことができることを特徴とする、請求項１に記載の方法。

【請求項３】
ひとたび、電力の印加が止まり、実質的に２．２秒間続くオフ期間が続くと、前記電力パルスは実質的に４５ｍｓ続くことができ、前記電力パルス内の実質的に３５ｍｓにおいて計測値が取得されることを特徴とする、請求項１に記載の方法。
【請求項４】
使用中、前記センサに加えることができる最大電力レベルは、実質的に７０ｍＷであることを特徴とする、請求項１～請求項３のいずれか１項に記載の方法。
【請求項５】
前記センサは、実質的に１０ｍＷから７０ｍＷまでの電力範囲で動作可能であることを特徴とする、請求項１～請求項４のいずれか１項に記載の方法。
【請求項６】
電力を前記センサに実質的に連続的に加えて前記センサを動作温度にし、その後、前記電力を前記センサに断続的に加えて前記センサを動作温度に保持することを特徴とする、請求項１に記載の方法。
【請求項７】
電力を前記センサに実質的に連続的に加えて前記センサを動作温度にし、その後、前記電力を前記センサに断続的に加えて前記センサを動作温度付近に保持することを特徴とする、請求項１に記載の方法。
【請求項８】
使用中、電力を前記センサに実質的に連続的に加えて前記センサを動作温度にし、その後、電力非印加期間が続き、前記電力非印加期間の後、電力を実質的に連続的に加えて前記センサを動作温度にし、結果として生じるサイクルが、その後、前記装置の前記動作全体を通して継続することを特徴とする、請求項１に記載の方法。
【請求項９】
使用中、ひとたび一定量の空気処理剤が発散されると、前記制御手段は、前記空中物質検出器手段を一定時間動作させないようにすることを特徴とする、請求項１～請求項８のいずれか１項に記載の方法。
【請求項１０】
使用中、前記制御手段は、発散後１秒から３０分までの間、前記空中物質検出器手段が動作するのをディスエーブルにするように動作可能であることを特徴とする、請求項１～請求項９のいずれか１項に記載の方法。
【請求項１１】
使用中、前記制御手段は、発散後実質的に９０秒から１８０秒までの間、前記空中物質検出器手段が動作するのをディスエーブルにするように動作可能であることを特徴とする、請求項１～請求項９のいずれか１項に記載の方法。
【請求項１２】
使用中、前記少なくとも１つの前記空中物質検出器手段は、前記現在の空中物質レベルが、所定量より多く、検出されたバックグラウンドの空中物質レベルから逸脱しているかどうかを検出するように動作可能であり、前記バックグラウンドの空中物質レベル及び前記現在の空中物質レベルは、前記装置によって計算されることを特徴とする、請求項１～請求項１１のいずれか１項に記載の方法。
【請求項１３】
使用中、前記制御手段は、前記空中物質検出器手段の所定数の最新測定値の平均を計算することにより、前記現在の空中物質レベルを計算するように動作可能であることを特徴とする、請求項１２に記載の方法。
【請求項１４】
少なくとも１つの空気処理剤の分配装置であって、前記分配装置は、
空気処理剤の少なくとも１つの取り外し可能容器を少なくとも部分的に内部に受け入れるように適合された内部を定める１つ又はそれ以上の壁を有するハウジングを含み、前記ハウジングにおける前記装置は、

空気中の空中物質を検出するように動作可能な空中物質検出器手段を含み、前記空中物質検出器手段には、使用中、前記装置の外部からの空気が前記空中物質検出器手段に入るのを可能にするための、前記装置の外部へ通じる少なくとも１つのアパーチャが設けられ、

空気処理剤の前記少なくとも１つの容器を受け入れるための受け入れ手段と、

使用中、前記ハウジング内の１つ又はそれ以上の出口オリフィスを通って、前記装置から前記空気処理剤を発散させるように適合された発散手段と、

前記発散手段及び前記空中物質検出器手段と通信状態にある制御手段とをさらに含み、

前記空中物質検出器手段は、１つ又はそれ以上の金属酸化膜半導体センサ、又は、１つ又はそれ以上の金属酸化物匂いセンサを含み、

前記装置は、請求項１～請求項１３のいずれか１項に記載の方法に従って動作するように構成される、

ことを特徴とする分配装置。